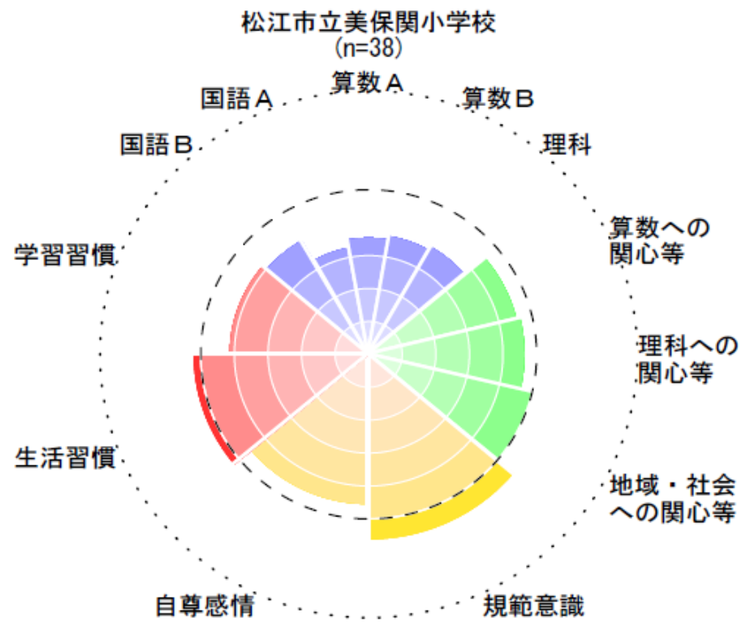
平成30年度　全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立美保関小学校）

平成30年9月25日

（1）学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題（○：成果，●：課題）	対　策
国語	A（基礎）	○話すこと・聞くことに関する問題は、他の問題よりは正答率が高かった。 ●漢字の読み書きや慣用句など、基礎的な知識の定着が不十分である。	・漢字や慣用句やことわざなどに、楽しんで触れる機会を習慣化する。 ・授業の中で、国語辞典をひく機会を増やし、知らない言葉に関心をもち調べようとする習慣を身につけさせる。
	B（活用）	○比較的短くわかりやすい文章については、発言者の意図など読み取ることができる。 ●いくつかの条件に応じて、目的に沿った文章を書くことが苦手である。	・いろいろな教科、場面によって、目的や指示に沿った文章を書く機会を増やし、その書き方を指導する。 ・いろいろなジャンルの本、文章にふれる機会をもち、感想を伝え合ったり、考えを深めあったりする活動を取り入れる。
算数	A（基礎）	○「量と測定」領域は、他の領域に比べて正答率が高くなっている。 ●数量関係、割合、グラフの読み取りなど、基礎的な力が十分についていない。	・基礎的な力をつけるために、ドリルでの反復練習を繰り返し行う。 ・計算会を目標に、自主学習に進んで取り組ませ、基礎基本の定着を図る。
	B（活用）	○図形に関する問題については、おおむね理解できている。 ●「数と計算」「量と測定」領域における記述式の問題に課題が見られる。	・自分の考えを、根拠を明らかにして説明する場を設定する。 ・問題解決までのステップをていねいに確認するなどの、授業展開の工夫を行う。
理科		○観察や、実験に係る知識や技能は比較的身についてきている。 ●学んだことを生活と結びつけたり、総合的に考える力が弱い。	・見学や観察、実験等、体験を重視した学習を進めていく。 ・授業の中で伝え合いの場を多く設定し、用語を正しく使って説明したり、質問しあったり、また考えを整理して書いたりする機会を増やす。

（4）学力調査及び生活意識調査から見られた傾向（破線は全国平均）

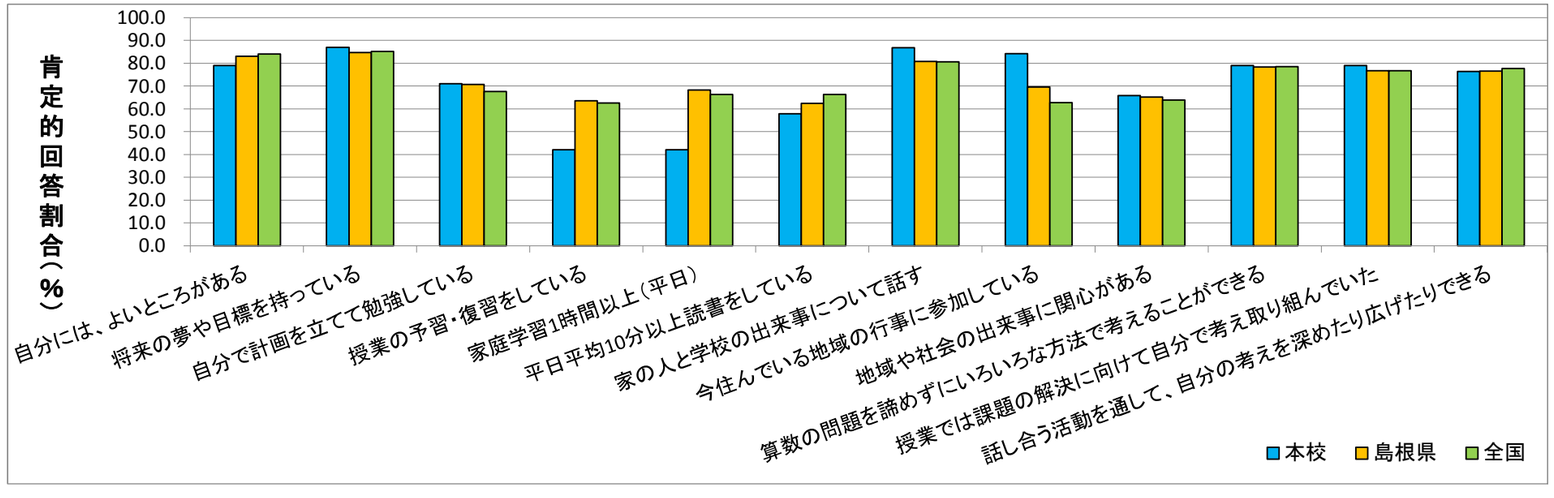


（2）生活意識調査から見られた傾向

成果と課題（○：成果，●：課題）	対　策
○地域の行事やボランティア、行事へ参加する割合がかなり高く、地域の方とのかかわりが盛んに行われていることがわかる。これまでふるさと教育を推進してきた成果の現われと考えられる。 ●「自分によいところがある」「先生がよいところを認めてくれている」の項目の割合が低い。他者から承認される機会が少ないことから、自己肯定感が低いと考えられる。	・教師が承認することはもちろんであるが、同学年や異学年とのかかわりを通してお互いによさを伝え合うことで自己肯定感の高揚を図る。 ・学習内容と生活を関連づけることでその教科を学ぶ意味を感じ、興味・関心を高めることができるようにする。

（5）その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・自主学習の推進。
・授業スタイルの確立（めあてをもつ、伝え合い、ふりかえり）
・図書館活用教育の推進、読書活動の充実。
・職員研修、研究授業等を実施し、教員の指導力向上に努める。



【参考】

○平均正答率

		本　校	松江市	島根県	全国
国語	A	57	70	68	70.7
	B	46	57	55	54.7
算数	A	51	62	61	63.5
	B	38	50	49	51.5
理科		51	59	58	60.3

受検者数　　38 人

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受験者数をもって表示しています。